

WinCT-AD4212C 使い方

2009/7/24 (株)エー・アンド・デイ

1. 基本的な使い方

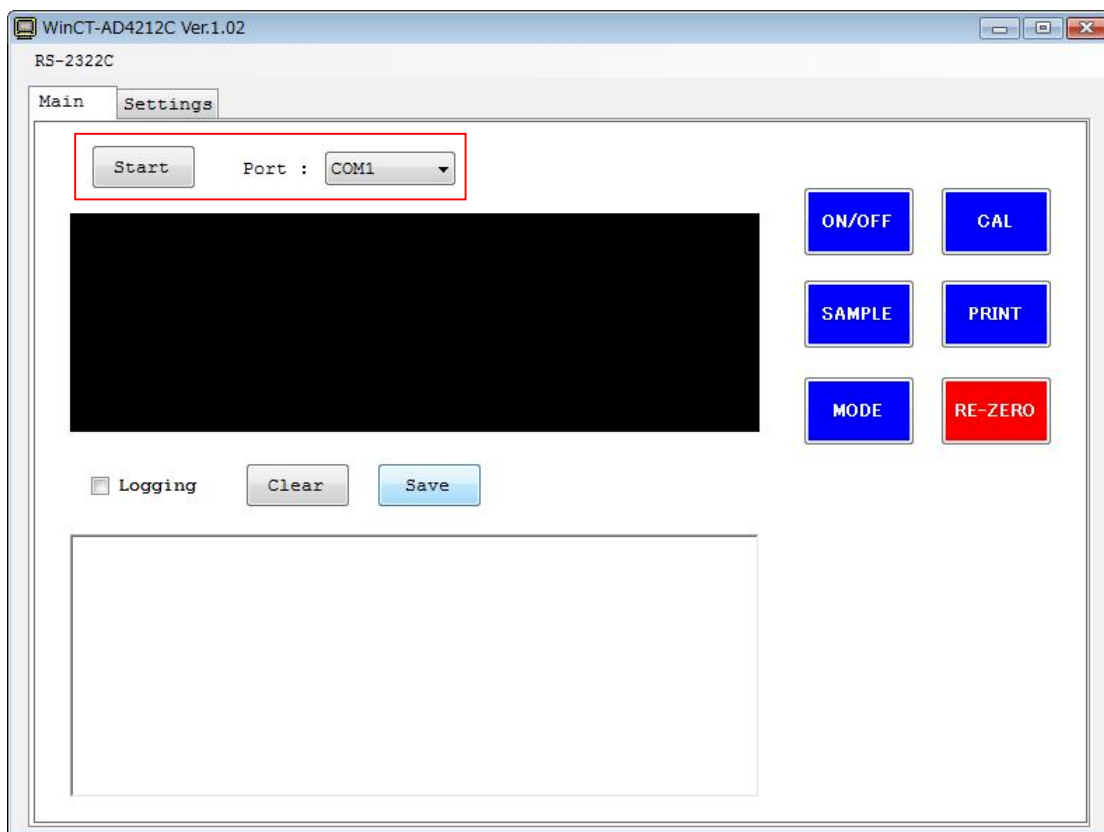
①スタートメニューから WinCT-AD4212C を起動します。

②AD4212C を接続した COM ポートを選択して、[Start]ボタンを押します。

※通信設定は AD4212C の出荷時設定に合わせてあります。

設定を変更した場合、[Start]ボタンを押す前にメニューの[RS-232C]から通信設定を合わせて下さい。

AD4212C の出荷時設定：2400bps、7bit-Even、ストップビット 1bit



③計量データが表示されます。

右側のボタンで、AD4212C を操作することができます。

[ON/OFF] : 計量値表示の ON/OFF を切り替えます。

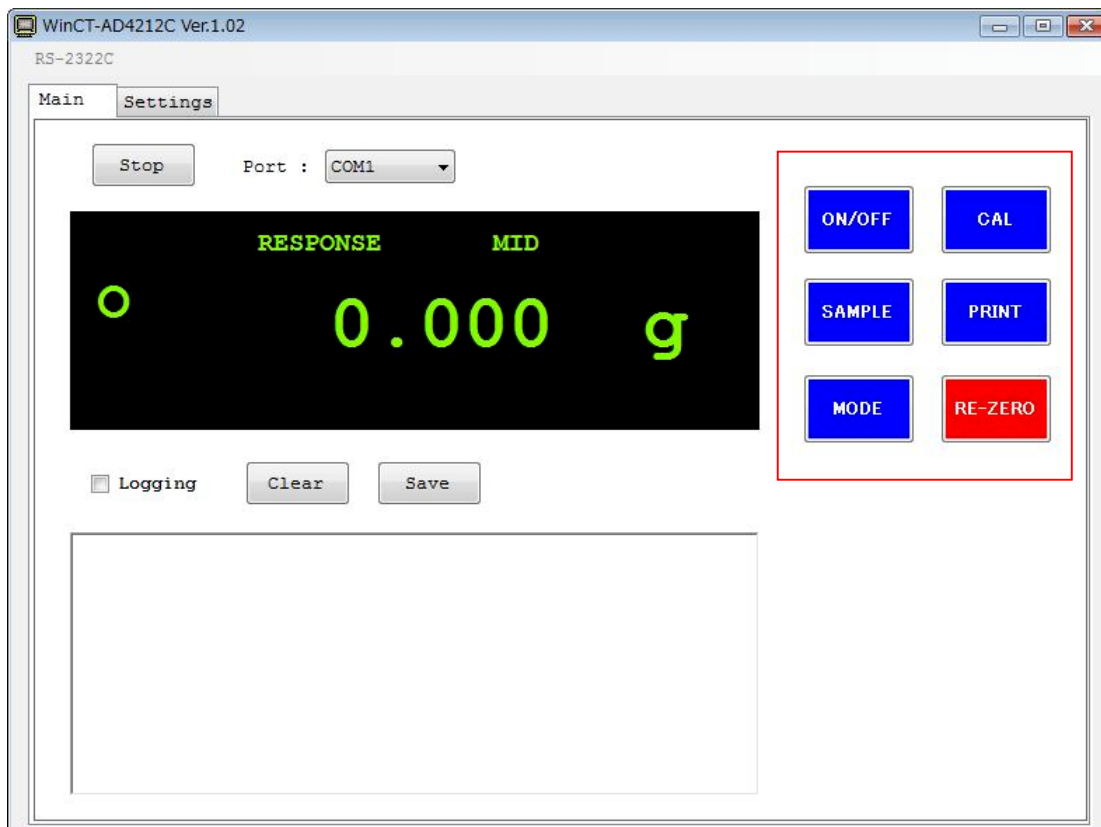
[SAMPLE] : 最小表示の桁を切り替えます。

[MODE] : 応答特性を切り替えます。

[CAL] : 校正モードに入ります。

[PRINT] : 使用しません。(校正時に使用します)

[RE-ZERO] : 表示をゼロにします。

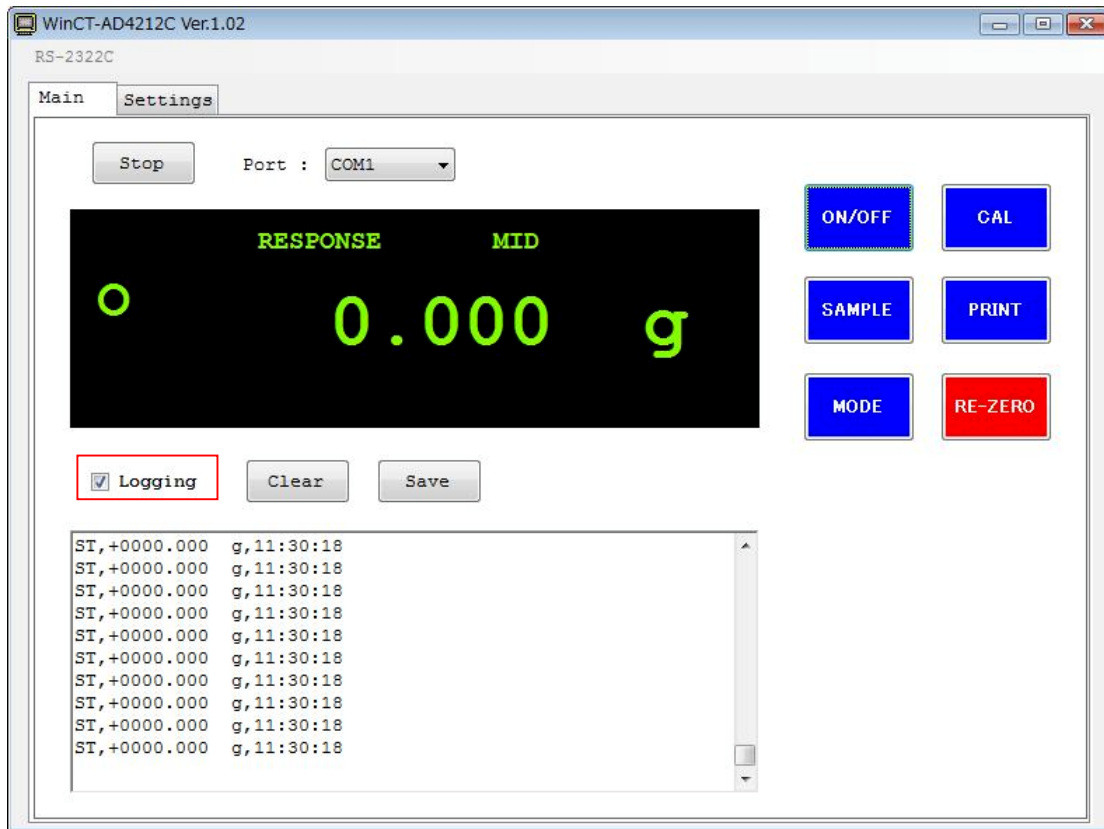


④計量データを取り込みたい場合、[Logging]にチェックを入れます。

ウィンドウに計量データと受信した時刻が入力されます。

[Clear] : ウィンドウをクリアします。

[Save] : ウィンドウのデータをテキストファイルとして保存します。



⑤左上の[Stop]ボタンを押すと通信を終了します。

⑥終了する場合、右上の[×]ボタンで閉じます。

2. 校正方法について

①CAL ボタンを押してください。

②「CAL 0」表示になります。計量皿に何も載っていないことを確認し、PRINT ボタンを押してください。ゼロ点を計量します。振動などを与えないでください。

③「200」（AD4212C-300）または「2000」（AD4212C-3000）と表示されます。

校正分銅を載せ、PRINT ボタンを押してください。分銅を計量します。振動などを与えないでください。

④分銅を取り除きます。自動的に計量表示に戻ります。

3. 応答特性の変更について

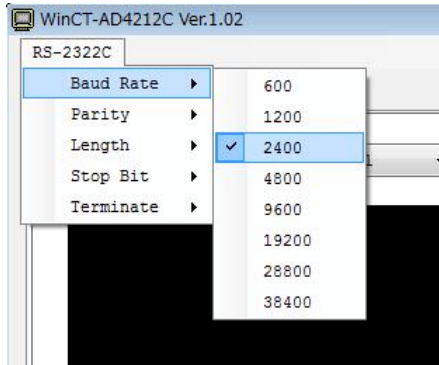
MODE ボタンを押すたびに、FAST→MID→SLOW と変更されます。

FAST（計量スピードが速い、振動に弱い）、SLOW（計量スピードが遅い、安定した表示）

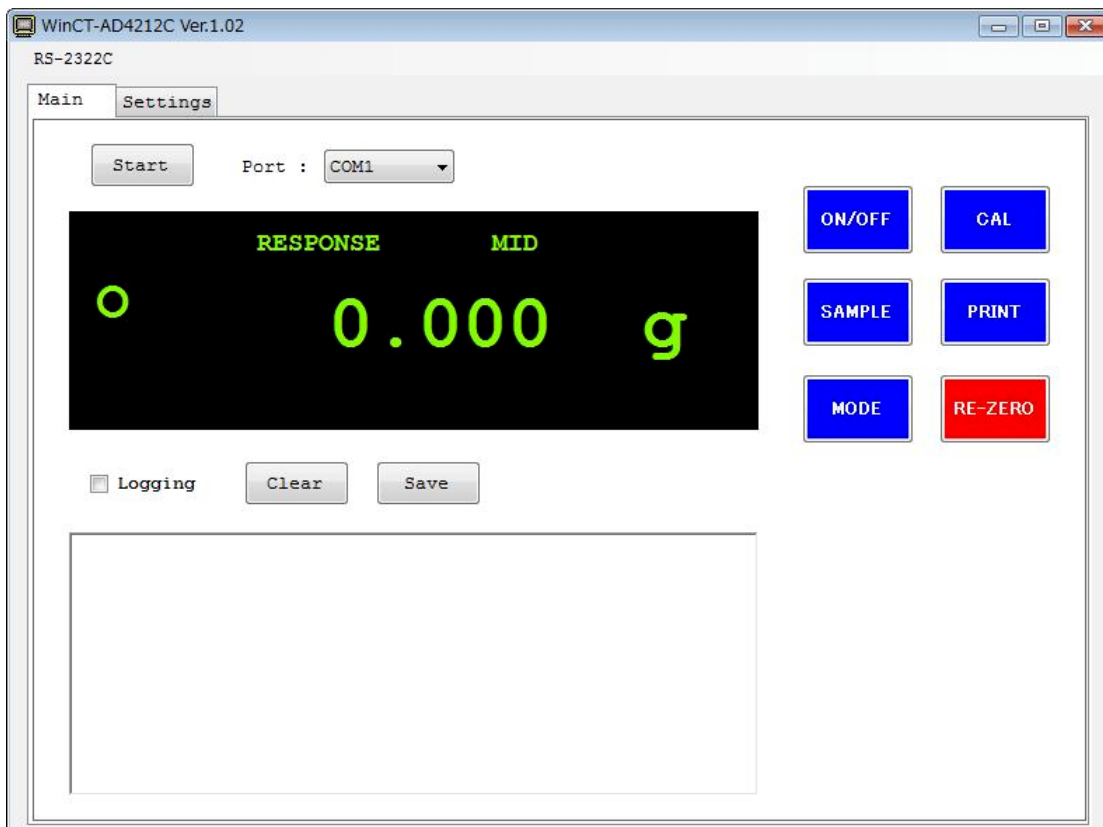
4. ボーレートの変更について

AD4212C 本体のボーレートは以下の手順で変更できます。

- ① 「メニュー」 → 「RS-232C」 → 「Baud Rate」 より、AD4212C 本体のボーレートと合わせます。



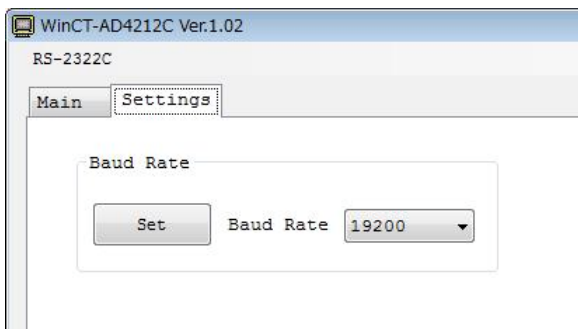
- ② 「Start」 ボタンを押します。計量値が表示されることを確認します。



③ 「Settings」 タブを選択します。



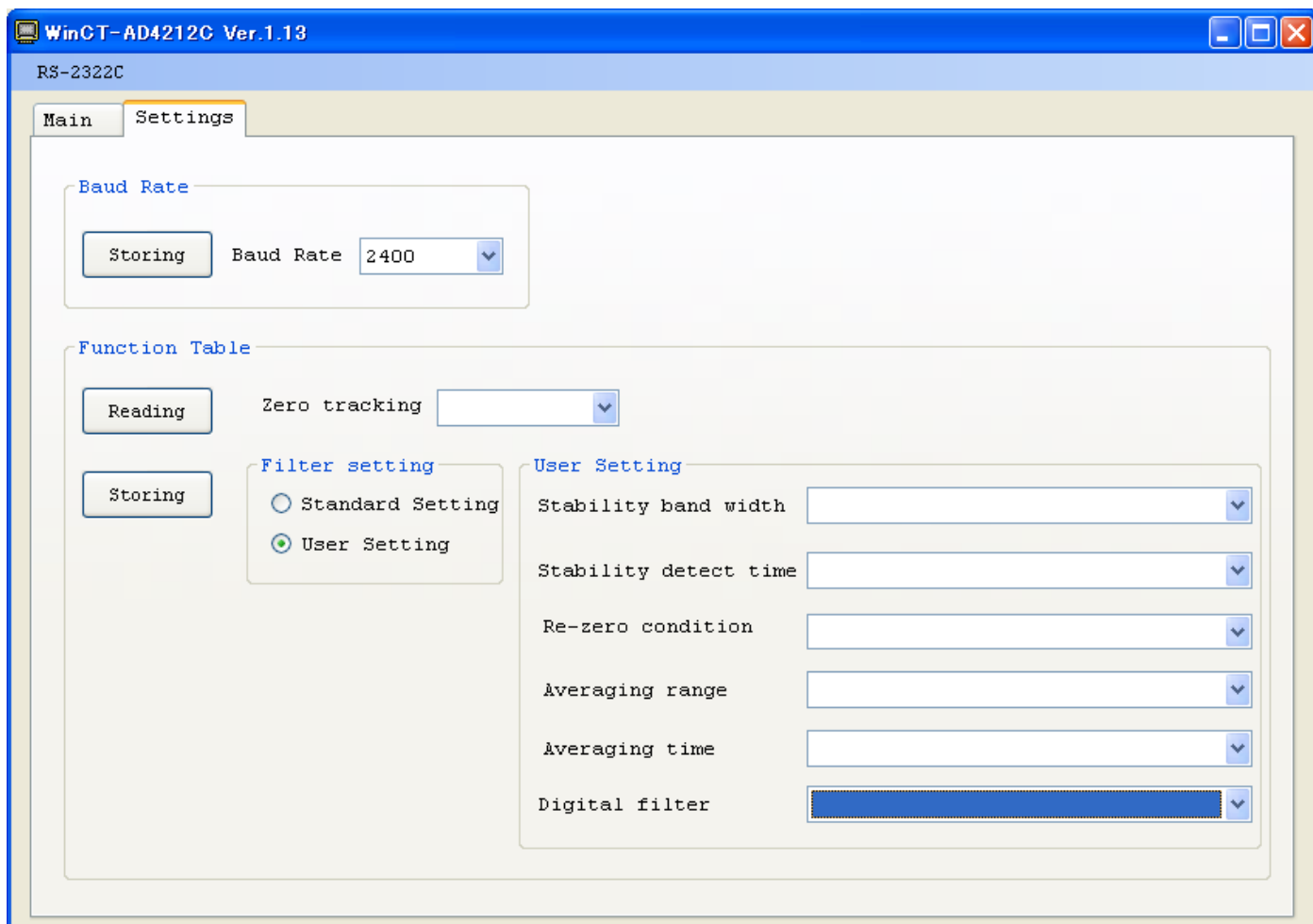
④ 設定したい「Baud Rate」をリストから選択します。



⑤ 「Set」 ボタンを押します。

⑥ 設定変更が完了すると「Completed!」と表示されます。

以上



Reading	現在の天秤の設定を読む。
Storing	設定を変更する。

Zero tracking	OFF	オフ
	Normal	通常
	Strong	少し強い
	Very Strong	強い

Standard setting	MODE キーにて『FAST』『MID』『SLOW』の変更が可能
User setting	標準の計量スピード設定より細かく設定可能。 ここを選択すると、『User setting』の表が有効になる。

詳細説明

Stability band width	安定検出幅	
計量値が一定の幅以内で、一定時間(安定検出時間)経過すると、安定と判断し、安定マークが点灯します。	0	±1digit
	1	±2digit
	2	±3digit
	3	±4digit
	4	±5digit
	5	±6digit
	6	±7digit
	7	±8digit
	8	±9digit
	9	±10digit

Stability detect time	安定検出時間	
計量値が一定の幅以内で、一定時間(安定検出時間)経過すると、安定と判断し、安定マークが点灯します。	0	標準設定
	1	0.1second
	2	0.2second
	3	0.3second
	4	0.4second
	5	0.5second
	5	0.6second
	7	0.7second
	8	0.8second
	9	0.9second

Re-zero condition	リゼロ実行条件	
表示値をゼロにするリゼロ動作は、計量値の安定を待ち、その点をゼロ点として記憶し、表示をゼロにします。この設定によって、リゼロ動作の安定を待つ条件を設定する事が可能です。	0	安定、非安定に関わらず即時実行
	1	安定で即時実行
	2	安定0.2秒連続で実行
	3	安定0.3秒連続で実行
	4	安定0.4秒連続で実行
	5	安定0.5秒連続で実行
	6	安定0.6秒連続で実行
	7	安定0.7秒連続で実行
	8	安定0.8秒連続で実行
	9	安定0.9秒連続で実行

Average range	平均化幅	
計量値の変動が「変化幅」以内となると平均化を開始し、表示値をより安定化させています。微少量の充填など、計量値の変動が小さい場合は、常に平均化が行なわれ、応答が遅くなる事があります。	0	標準設定
	1	3digit
	2	5digit
	3	10digit
	4	40digit
	5	80digit
	6	120digit
	7	常にON

Average time	平均化時間	
計量値の変動が「変化幅」以内となると平均化を開始し、平均化の回数が「平均化時間」に達すると、それ以降は移動平均となります。この設定では、移動平均となる平均化時間を設定できます。	0	標準設定
	1	なし
	2	0.5秒
	3	1.0秒
	4	1.5秒
	5	2.0秒
	6	2.5秒
	7	3.0秒

Digital filter	デジタルフィルタ	
<p>常に一定のアベレージがかかり、この設定では、計量スピード(応答)の特性を変更できます。</p> <p>標準設定のデジタルフィルタの設定値は以下です。</p> <p>FASTより、チラツキが大きくても応答特性を速くしたい場合は、『4』以下に設定する。</p> <p>応答特性より、安定度が必要な場合は『4』以上に設定する。</p>	0	0.20 second 応答が速いが、値がチラツク
	1	0.30 second
	2	0.40 second
	3	0.45 second
	4	0.55 second
	5	0.50 second
	6	0.60 second
	7	0.65 second
	8	0.75 second
	9	0.80 second
	10	0.90 second
	11	1.10 second
	12	1.50 second
	13	1.80 second
	14	2.00 second
	15	2.50 second
		16

標準設定時のデジタルフィルタ値

標準設定	最小表示時	1桁ブランク時
FAST	4	0
MID	10	4
SLOW	13	10